

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和4年度第10回）議事概要

日時：令和5年1月27日（金）10：30～12：00

場所：国立がん研究センター 管理棟 第一会議室 ※Webex 使用

出席者：中釜斉理事長、間野博行理事、児玉安司理事、北川昌伸理事、本田麻由美理事、
小野高史監事、近藤浩明監事、島田中央病院長、大津東病院長

欠席者：北川雄光理事

I. 前回（令和4年度第9回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・前回議事録署名人を間野理事と小野監事に依頼。

II. 審議事項

1. 非常勤職員の給与改定について

資料に沿って報告された。

2. 病院長候補者選考委員会委員の選定について

資料に沿って報告された。

3. IT化の報告について（決算プロジェクトチーム）

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・新日本監査法人や会計監査人、システムの専門家、コンサルタント等に助言を頂きながら議論したのか、そうであればどういった助言があったのか教えていただきたい。
- 今回の中長期対応、短期対応には監査法人にも確認いただき概ね妥当な改修内容であるとのご意見を頂いている。特に中長期の対応の際にはコンサルタントや IT 専門家などのご意見も伺いながら対応させていただきたい。
- ・CSV ファイルで連携しているシステムの外側の部分についてどのようにシステム化するのか。また、一般企業では間接部門の IT 化と同時に合理化そして会計部門担当者の別部門へのリスクリングが急激に進んでおり、経理・会計担当者が激減している現状がある。会計に関しては入力だけを行い、他はクラウド上に上げ、海外などに外注するという方策を取っているところも見受けられる。中長期的に見ての費用対効果の検証、人手不足分野へのリスクリングなど大規模な改革が必要であり、国の組織ということで難しい面もあるかとは思われるが、現段階で検討していることはあるか。
- CSV でのデータ連携もできていないシステムは現段階で5つあり、短期・中長期両方の観点から対応について検討させていただく。システムの再構築には大規模な費用が掛かるのでシステム化によってどれほどの費用対効果があるのか、人員の再配置についても監査法人やコンサル等のアドバイスもいただき、全体的に評価をしながら詳細についても検討していきたい。

III. 報告事項

1. 企業との人事交流について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・センターに求められる機能を支える人材の多様化が進んでいる。限られたリソースの

中での人材確保は厳しい面もあるが、今後は研究開発の出口も意識した人材の確保という意味での企業との人事交流も増えてくることが想定される。組織としてのCOI管理を徹底しつつ、進めていきたい。

- ・NCと民間企業との交流は是非とも進めていただきたい。中期計画上で民間との人事交流について記述することになるが、その達成度の測定に際し、具体的にどのような成果が出たか、体制推進の上でより良いシステム構築に向けてどのような努力をしたかについての記述を求められた経験がある。そういった部分についても留意の上進めていくべきである。

2. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

3. 広報実績等

資料に沿って報告された。

4. 令和5年度厚生労働省予算案について（内示後）

資料に沿って報告された。

5. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

6. 12月分医業件数等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・中央病院においては収入増と比較して材料費の増加が目立つ。この要因について教えていただきたい。
- 両病院ともに通院治療で使用する高額薬剤の使用量が増えており、収益性が十分に確保できていない現状がある。材料費の想定以上の増加に対してどのような対応が必要かについては再度精査が必要であると考えている。
- 病床利用率等を見ても、新型コロナウイルスのクラスター発生により、病床利用率を十分に確保できなかった影響は大きいと考える。第7波においては、医療従事者にも多くの欠勤が出ており、クラスターの状況も複数病棟が絡んで発生しているため、入院制限をかけざるを得なかった。病床利用率を上げれば収支も改善できると考えている。